

小野谷機工株式会社

7月11日 東京証券取引所へ上場

小野谷機工株式会社は11日、株式会社東京証券取引所 TOKYO PRO Marketに株式を上場した。証券コードは209A。株式上場という新たなステージ、新たなスタートラインに立って、小野谷機工はどのような未来を目指しているのだろうか。上場当日、同社宇田公郎社長に本紙編集部までお越しいただき、その胸の内を聞いた。

(木本)

お客様の信用をより高めて

「このたびは上場おめでとうございます。『ありがとうございます』」

「亡くなり、その路線を継承することが難しくなりました。新しい経営の形をどうするか、考えました。結局、経営理念に基づき経営を目指そう、ということ。新しい経営理念をつくったわけです。それによって全社員が同じ方向を向いて仕事をしていく。そしてそれを進めるにあたってやはり株式を上場してですね、お客様の信用をより高めて、透明性のある経営を進めていく、社員も」

「最初の上場しようと思ったきっかけから教えてください」

『弊社は創業者(故・三村義雄社長)が立ち上げて50年以上ビジネスをやってきたわけですが、創業者の強力なリーダーシップのもと、いわゆる創業者経営というものを進めてきたわけですが、3年前に創業者が』

上場記念インタビュー

代表取締役社長

宇田公郎氏に聞く



Marketは一般市場向けではないですが、上場までの準備期間が比較的短い、3年と言われたんです。今回、最短で上場できたと思うんですけど、大変でした(笑)。ガバナンス体制の整備や透明性の確保、経営理念に基づく経営の推進、細かい審査を一つ一つクリアして、ようやく上場することができました。ただ、上場後のほうが大変だと思っております。ステークホルダーの皆様に対する責任が重くなるという風

「Marketは一般市場向けではないですが、上場までの準備期間が比較的短い、3年と言われたんです。今回、最短で上場できたと思うんですけど、大変でした(笑)。ガバナンス体制の整備や透明性の確保、経営理念に基づく経営の推進、細かい審査を一つ一つクリアして、ようやく上場することができました。ただ、上場後のほうが大変だと思っております。ステークホルダーの皆様に対する責任が重くなるという風」

「情報公開も必要になりますね」

『はい、業績や経営に何らかの影響を与えるようなことはプレスリリース、ホームページ』

「『イメージにお任せします(笑)。東証とかPRO Marketへの支払いや監査法人の監査をはじめいろいろなことがあり、お手伝いいただかねばならないところが増えるという事でしょうか』」

『やっぱりマーケットは変化しておりますので、そこでどれだけ私共の強みを生かして業績につなげられるだろうかというところだと思います。チャンス』

「『今後重点的に取り組んで行かないといけないのが、上場に伴って信用力を一層高めてお客様との絆を強化していくこと。それから開発力を高めるための技術への投資、それと生産性を上げていくという意味でのシステム強化ですね。DX化を推進していく必要がある。そして一番重要なのは小野谷のモノづくりというものを継承していく人材の確保と育成というものが重要だと思っております。着実に取り組んでこれからの持続的な成長につなげていきたいと思っております』」



自社の強みを生かす

「ソリユーションビジネスの強みとは何でしょうか」

『例えばモノづくりというものであればお客様の「困り事」に配慮されるような付加価値機能を持った商品開発、これは独創的なモノづくりのDNAというのか、今までの事業の中で培ってまいし、もう一つは部品加工から組み立てまでの一貫した生産体制、これも強みだと思っております。開発から製品化までのスピードアップはもちろん、品質管理、アフター部品の供給という点でも強みを発揮すると思っております。』

「3つ目は全国10カ所の営業所のセールスマンを通じてソリユーション提案、営業提案できる体制を持っているということですね。我々メーカーが直接お客様の声を聴き、それに対して応えていく。また直接アフターサービスを行える。そこがやはりお客様の信頼を高めていると思っておりますし、当社のリピート率の高さというものがつながっていると思っております。そういった強みを生かして、引き続きチャンスをとらえて、顧客ニーズに配慮する商品開発、お客様の事業を支えるサービス、これを事業の推進力の両輪として小野谷のオンリーワンの価値をユーザーの皆様にお届けできればと思っております」

ふるさとに生きる、ふるさとを創る！

【絶品づくりの構成(目次)】

- 第1章 地域絶品づくりとは
- 第2章 ふるさとが元気になる5つの基本原則
- 第3章 食の絶品づくりの開発ステップ
- 第4章 絶品づくりの3か年計画
- 第5章 具体的事例

ふるさとが 元気になる 地域絶品づくり のすすめ

農業、漁業などが産業の中心で、行き詰りに陥っている地方にいま生活している人達が自らの力で、地元で眠っている魅力ある商品ふるさと絶品を発掘し、商品化するための最新プログラムを、マーケティングコンサルタントの二人が具体的成功例を紹介しながら丁寧に初公開！こうした絶品づくりが人も絶品にしていく！

吉川京二 / 佐竹嘉廣 共著

◇国立小樽商科大学特設教授(マーケティング)
◇フードコンサルタント

定価1620円(税込) 四六判164頁

木本書店
東京都港区新橋 5-14-3 電話 03-6402-7708 <http://www.kimotoshoten.co.jp>



上場通知書を持つ宇田社長（中央左）と三村会長（同右）を囲んだ小野谷機工の皆さん

東証上場セレモニー

日本橋兜町の東京証券取引所において、小野谷機工の上場セレモニーが11日執り行われ、小野谷機工から三村昌之代表取締役会長、宇田公郎代表取締役社長ほか役員、社員ら計20人が出席した。式典の冒頭は「本日の上場にあたり、お取引先様および関係各位の皆様には深謝申し上げます。お客様第一のタイヤサービスソリューション企業として、持続的な成長を目指してまいります」と宇田社長の挨拶が画面に

「上場を機に、社員の方々の意識はどうですか、変わりましたか」「少しずつ変わってきました。上場に向けたいろんな整備、取り組み、見える化を通じて、今まで気付かなかった会社の考え方を理解してもらえたと思います。何よりも企業理念の中には社員ファーストの考え方も織り込んでありますので、この3年、働きやすい職場づくりに取り組んでおりますし、その技術のニーズをより深く応用できるような取り組みを進めております。あと人材の多様化も必要だと思います。いろんな考えを持った人がいて、いろんな意見を交わして調合していく。かなり外国人社員を入れておりますし、将来海外に出ていくとしても、そういう人たちが育ってくれば準備もできるのかなと思います」

「海外進出の可能性についてどうですか」「検討しています。『検討しています』が、今のタイミングでの進出は得策でない、というのが結論です。もう少し市場が成熟しないと無理でしょう」

「今回、上場するのとどんなメリットがあるとお考えですか」「上場した目的の一つに信用力を上げることがあります。経



記念の鐘を鳴らす三村昌之の会長

人材の多様化も

「機関投資家向けの市場ということで、株価はどのようになるでしょうか」

「機関投資家の方に正しい判断をしていただくような情報発信はやっていかないとけないと思います。その意味で今以上に業績動向については正確なものを

スピードが財産

「いい指摘だと思います。私共の一番の強みはスピード経営です。創業者経営がまさにスピード経営でしたので、お客様へのレスポンスのスピードが早い、これが一つの財産であるんですね。私共は従業員300人のグループですから、大企業のような形にはいかないのですが、こうしたいい部分はまた損なわれてないと思います。しかし、これから気を付けていかねばならない。最後にユーザーの



皆様メッセージをお願いします

「タイヤ事業は大変な時代に入っていると思うんですね。私共がお手伝いできることはしっかりと取り組んでいきたい。人手不足というのは大きなインパクトだと思いますし、私共もそうです。そういった「困り事」とかいろんな変化に対応してのモノづくりと言ったものをしっかりとユーザーのご要望に応えられるような製品造りに引き続き強化して取り組んでいきたいと思うし、お客様の事業を止めない、そういったサポートサービス、メンテナンスなどを寄り添う形で、今まで以上に取り組んでいくことが業界のお手伝いになるのかなと思います。共にやっばり未来をね、創造できればいいし、社員とともに新しい歴史を創っていかねばいいと思います」

タイヤ年鑑 [2023]

新刊を発売!!

業界の今を知る
必備の資料集!

タイヤ産業に関するあらゆるデータを網羅した『2023年版タイヤ年鑑』を好評発売中です。

生産、国内販売、輸出入の推移はもちろん、国内メーカーの概要、海外メーカー工場の生産能力、ディーラー名簿等豊富な資料を収録した業界唯一のイヤブックとして各方面からご好評を頂き創刊以来46年となります。

販売戦略から社員教育まで、タイヤ関連ビジネスに必備の一冊としてぜひ御活用ください。

▽体裁 B5判 526ページ(函入)
▽定価 35200円(税・送料込)
ご予約はFAX03(6402)7709、お電話(6402)7707でどうぞ。

FAX注文書

RK通信社行 FAX03(6402)7709

タイヤ年鑑 [2023年版]



定価35,200円(税・送料込)

御社名・ご住所 〒 □□□-□□□□

TEL

御担当者名

(株)RK通信社 TEL03(6402)7707 FAX03(6402)7709
〒105-0004 東京都港区新橋5-14-3 ユタカビル8F